

2021 年を振り返って：「元気を出そう」とイエスは言われる

202.12.26 メッセージノート

- **引きこもり**：コロナ禍で多くの人が引きこもり気味になっている：虐待と DV・女性の自殺・引きこもりの増加、対面の価値、コロナロスとコロナ・アンビバレンス（斎藤環『コロナ禍における引きこもりがもたらす心理的影響』）。また、これまで潜在的な問題が、顕在化してきている。
- **今日のメッセージのねらい**：「山上の説教」（5-7 章）の後、イエスは多くの病人を癒しながら（8 章）、正しい自己認識を持つことについて（9 章）教えられた。その上で、十二弟子を任命するのだが（10 章）、今日は、この 9 章の正しい自己認識から、この一年を正しく振り返ることをしてみたい。

マタイ 9:1-7¹それで、イエスは舟に乗り込み、ご自分の町カペナウムに帰られました。²そうこうするうち、数人の人が、中風の男を寝床に寝かせたまま運んで来ました。必ず治していただけると信じていたからです。イエスはこの人たちの信仰を見て、病人に、「さあ、元気を出しなさい。わたしがあなたの罪を赦したのですから」と言われました。³「なんと罰あたりなことばだ！ まるで、自分が神だと言っているようなものではないか。」ユダヤ教の指導者のある者は、腹の中が煮えくり返る思いでした。⁴イエスは、彼らの心中を見抜いて、「なぜそんな悪いことを考えているのですか。⁵⁻⁶この人に『あなたの罪が赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがやさしいですか。さあ、わたしに地上で罪を赦す権威があることを証明してみせましょう」と言い、向き直って、中風の男に命令なさいました。「さあ、起きて寝床をたたみ、家に帰りなさい。もう治ったのですから。」⁷すると男は飛び起き、家に帰って行きました。⁸この有様を目のあたりにした群衆は、恐ろしさのあまり震え上がり、このような権威を人にお与えになった神をあがめました。

- 「元気を出しなさい」は、マルコ（2 章）にも、ルカ（5 章）にも含まれない。「あなたの罪は赦された」のみだ。どうして、マタイはこの言葉を含めたのだろうか？ 勿論この言葉をイエスは言われたのである。
 - ・ この言葉が使われている例：
 - a. 婦人病の癒し：**ルカ 8:43-48** ⁴³⁻⁴⁴けれども途中で、一人の女が、いやされたい一心で、うしろからイエスにさわりました。十二年もの間、出血の止まらない病気に悩まされ、どんなことをしても治らなかったのです。ところが、イエスの着物のふさにさわったとたん、出血が止まりました。⁴⁵イエスは、「わたしにさわったのはだれですか」とお尋ねになりました。みな自分ではないと答えたので、ペテロは言いました。「先生。わかるわけがありません。回りにはこんなにたくさんの方がひしめき合っているんですよ。」⁴⁶「いや、だれかがさわりました。力が出て行くのを感じたのですから。」⁴⁷女は、イエスがすべてをご存じなので、わなわなと震えだしました。とても隠しきれないと知って、イエスの前にひれ伏し、さわった訳とすっかりよくなったこととを、包み隠さず打ち明けました。⁴⁸イエスは女に、「あなたの信仰があなたを治したのです。さあ、安心してお帰りなさい」と言われました。
 - b. パウロ：**使徒 23:11** その夜、主がパウロのそばに立って、こう言われました。「パウロよ、心配はいらない。あなたは、このエルサレムでと同じように、ローマでもわたしのことを人々に証言するのだ。」
→ 両者とも、存在の価値に関わる問題が揺るがされていた。

■ 「わたしがあなたの罪を赦したのだから」:「罪」(ハマルティアイ)と訳された言葉は、複数形で彼が犯してきた全ての過ちという意味。病の原因は、彼の罪とは直接関係はなかったにも関わらず、ここでイエスが「わたしがあなたの罪を赦したのだから」と強調されたのは、中風の人が、そう感じて苦しんできたこと(多くの罪を犯したためにこの病気になっているという縛り)への深い思いやりと解すべきである。神はいつも私たちの心の動きに敏感に対応される。そして、全ての罪を赦された。

➤ あなたの心を今縛っていることは何だろう。神はそのことからあなたを解放しようとしておられる。

■ どうしてマタイには「**元気を出せ**」というイエスの励ましの言葉が心に響いたのだろうか？

マタイ 9:9-13⁹ イエスはそこを去り、道を進んで行かれました。途中、マタイという取税人が取税所に座っていたので、「来なさい。わたしの弟子になりなさい」と声をおかけになると、マタイはすぐ立ち上がり、あとについて行きました。¹⁰ そのあと、イエスと弟子たちは、マタイの家で夕食をとることになり、取税人仲間や律法の規定を守らない人も大ぜい招かれました。¹¹ これを見たパリサイ人たちはかんかんになり、弟子たちに、「おまえたちの先生は、どうしてあのような者たちとつき合うのだ」と食ってかかりました。¹² イエスはこれを聞いて、「健康な人には医者はいりません。医者が必要なのは病人です」とお答えになり、¹³ さらにこう続けました。「聖書に、『わたしが喜ぶのは、いけにえやささげ物ではなく、あなたがたがあわれみ深くなることである』(ホセア 6:6)とあります。このほんとうの意味を、もう一度学んでください。わたしは、自分を正しいと思っている人たちのためにではなく、罪人を神に立ち返らせるために来たのです。」

- ・ 「**座っていた**」マタイ:(1)椅子のある地位にあった。すなわち、ある程度の地位と立場を獲得していた。(2)前置詞を伴い、ある姿勢を続けているという意味があり、a. 仕事場に四六時中いた。→ワークホリック(?)。b. いつもうつ向いていたと読み、マタイのうつの精神状態をあらわすと解釈することもできる。→ 仕事があり経済的な安定はあったが、そこに意味を見出しておらず、ある意味現実逃避的に仕事に引きこもるといふ鬱的な日々を送っていたのではないか？
- ・ それゆえ、この福音書においては、この中風を患っていた人の心の動きにも敏感だった。また、それゆえ、解放されることが嬉しくて大宴会を開いたのだろう。しかし、そこに横槍を入れる人たちがいた。
- ・ 「**医者が必要なのは病人**」:この言葉は、9章の結論。それは、自分に問題があることを自覚することの重要さということだが、問題のない人などいない。すべての人が、何らかの問題で恐れを抱いて生きている。ただ、その問題を認めてイエスの元に来た者は、癒され解放されて、自由な人生を生き始めた。
- ・ あなたは問題をイエスに話したか？もしそうするなら、主は「大丈夫」と言って、元気をくださる。

まとめ

1. イエスは、この中風の男性、婦人病の女性、マタイの心の状態もよくご存知の上で、「大丈夫、心配はいらない。元気を出しなさい」と励まされたが、あなたの心の状態についても熟知した上で、「大丈夫、心配はいらない。元気を出しなさい」と言われていると思わないか？
2. あなたが今心配していることは何か？主は、そのことについて何と言っておられるだろうか？主の優しい励ましの声を聞く必要があるのではないか？
3. 2021年を終わるにあたり、あなたはこの年にやり残したことやうまくできなかったことに縛られずに前進して良いという神様のメッセージを受け取るか？